

## 序

当教育研究所は、昭和61年度も恒例の事業として教育論文集の刊行を企画し、論説の部、実践記録の部、翻訳の部に分けて原稿を募集しましたところ、各学校の先生方や公民館の方から11編の原稿をお寄せいただきました。

本年は、11編のうち3編が論説、7編が実践記録、1編が海外体験記録となっています。

論説の内容は、一つは、コンピュータの学校への導入における課題を考察し、提言したものであります。また、一つは英語指導主事助手が、一か年の援助指導の体験を通して、足利における英語教育のあり方を論述したものであります。もう一つは、社会教育行政の立場から、放送メディアの社会教育における利用の意義やあり方を考察したものであります。

実践記録の内容は、教科に関するものをはじめ、特殊教育、学級経営、生命尊重の教育、保健指導など学校教育における課題に視点をあてた研究であり、私たちに大いに示唆を与えてくれるものであります。

また、外国における教育風土や教育における体験記録は、これから国際性のあり方を考えていく上で、貴重な提言となると思います。

いずれの論文も、最近の教育思潮を的確に把握しながら、日ごろの教育活動に根づいた、組織的・継続的な研究実践が多く見受けられます。

これらの教育論文は、読者自らの教育観深化の契機となるにちがいありません。したがって、ここに示された貴重な教育論文を、今後とも、各学校における日々の教育実践に十分生かされ、本市教育の発展に寄与されることを期待します。

終わりに、論文をお寄せくださった学校の先生方をはじめ、関係者の方々にお礼を申しあげるとともに、みなさまのますますのご活躍を祈念して序といたします。

昭和62年3月

足利市立教育研究所長

赤坂光三